



特集1—— 対談
北陸の活力ある地域づくりについて

特集2—— リモート市民現場見学会

特集3—— 建設技術報告会

69 2021.3



▲ あさひ舟川桜並木(富山県下新川郡朝日町)

会員各社名

アイサワ工業(株)	オリエンタル白石(株)	大成ロテック(株)	東洋建設(株)	(株)北都組
青木あすなろ建設(株)	(株)加賀田組	大日本土木(株)	戸田建設(株)	(株)本間組
あおみ建設(株)	鹿島建設(株)	大豊建設(株)	飛鳥建設(株)	前田建設工業(株)
(株)安藤・間	(株)熊谷組	(株)竹中土木	西松建設(株)	(株)丸山工務所
石黒建設(株)	五洋建設(株)	田辺建設(株)	日特建設(株)	三井住友建設(株)
岩田地崎建設(株)	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	日本国土開発(株)	みらい建設工業(株)
(株)植木組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)福田組	名工建設(株)
(株)大林組	(株)銭高組	東急建設(株)	(株)フジタ	りんかい日産建設(株)
(株)大本組	第一建設工業(株)	東鉄工業(株)	(株)不動テトラ	若築建設(株)
(株)奥村組	大成建設(株)			



69 2021.3

発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷

2021.3.25 発行





69 CONTENTS

- 1 VISION
「期待される建設業に向けて」
- 2 随想
「富山県の成長・発展を支える社会資本整備」
- 3 特集①
対談
北陸の活力ある地域づくりについて
- 11 特集②
リモート市民現場見学会
- 12 特集③
建設技術報告会
- 13 現場で輝くけんせつ小町
「一人の土木技術者として奮闘していきます」
- 14 エッセイ
『地域とつくる新しい未来』
- 15 ゆうたいむす
●「穴場中の穴場にいがたから10年で美食の街 にかがたへ」
●「佐渡の女性を身も心もキレイな美女軍団に!!」
●「はじめまして、の先に」
●「YOGAとライフスタイル」
- 17 私のプライベートタイム
「新たな出会いと一人の休日」
- 18 事務局だより

表紙の写真：富山新港 海丸と新湊大橋

「期待される建設業に向けて」

（株）大林組 北陸支店
執行役員支店長
佐藤 公彦
Kimihiro Sato



2020年は世界全土でコロナ禍一色の年となりました。米国等の一部の国において、ワクチン接種が始まってはいるものの、沈静化する気配が未だ見えず、長期化することが想定されます。

日本においても新型コロナウイルスの感染拡大は、社会や経済のみならず、個人々の働き方や生活のあり方にも多大な影響を与えており、不透明感や不安感が社会全体を覆っています。そのような状況にありながらも、各企業では、テレワークや業務のデジタル化等の知恵を結集して、大胆な業務プロセスの変革や事業の見直しに着手しています。

建設業界においても、「ICTツールを活用した施工」や「BIM・CIMの活用」、「PCa化」等従来からの生産性向上への取り組みが、コロナ禍において効果を発揮した年でもあったと思います。

コロナ禍は、我々が経験した事のない未曾有の災害となりましたが、この10年は気候変動リスクの拡大が顕在化するとともに、東日本大震災や熊本地震等の巨大地震、大型化する台風による風災・河川氾濫、米国や豪州での山火事など、災害が甚大化した時代でもありました。建設業は、その都度、社会インフラを支える業界として復興の役割を担ってきました。その意味では、改めて建設業界の存在意義、社会的使命が確認された

のではないかと思います。更に今後は、地球温暖化等に伴う気候変動による影響はより激しさを増していく事が予想されます。そのような中で、ESG経営の推進とSDGs達成への貢献が企業経営の重要な価値基準として社会に定着しつつあり、産業の裾野が広い建設業界においてとりわけ重要な意味を持つものと考えます。

「E:環境」「S:社会」「G:企業統治」という3つの観点で社会課題の解決を図ること、またそのような事業活動を通じてSDGs「Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)」達成に貢献することは、今や社会からの強い要請となっています。

現在建設業が抱えている「担い手不足」「建設現場の週休2日制導入」「けんせつ小町の推進」等の解決すべき労働環境への対応や「建設業の環境自主行動計画」に記載している低炭素社会・循環型社会・自然共生社会にむけた活動指針への対応、また各企業のコンプライアンス徹底等により、しっかりと社会の要請に応じていく事が、今後の魅力ある建設業にとって必要不可欠になると考えます。

会員の皆様と一緒に、建設業の明るい未来に向けて着実に歩を進めて行きます。



「富山県の成長・発展を支える社会資本整備」

富山県土木部長
江幡 光博
Mitsuhiro Ebata



富山県に北陸新幹線が開業してから、はや5年が経過し、開業前に比べると観光客の増加、企業立地の進展、Uターン率の向上等、様々な効果が表れております。土木部としましては、この新幹線開業効果をしっかり持続・深化させ、富山県がさらに成長・発展するよう、社会資本整備を通じて支えていきたいと考えております。

富山県には先人が築き上げた産業集積や多彩な歴史・文化がありますが、こうした産業・経済・文化の振興のためにも県内外や海外を結ぶ道路や港湾が欠かせません。日本海側と太平洋側をつなぐ大動脈である東海北陸自動車道は、飛騨清見ICから小矢部砺波JCTまでが未だ暫定2車線であり、早期の4車線化が望まれています。昨年度の国の「高速道路における安全・安心基本計画」において暫定2車線区間の全線が4車線化の優先整備区間に選定され、このうち2箇所 計20kmが新たに事業化されました。また、去る11月には、城端SAから福光IC間2.3kmの4車線化も完成したところです。県としましては、工事に長期間を要する飛騨トンネルなど、残る区間の早期事業化に向けて、国などに対して強く働きかけてまいります。

また、国際拠点港湾である伏木富山

港は、環日本海・アジア地域のゲートウェイとして、さらに災害時における太平洋側港湾の代替港として重要な役割を担うことが期待されています。県では、国と連携して港湾機能のさらなる強化を図っており、なかでも新湊地区の国際物流ターミナルでは、増加するコンテナに対応するため平成30年のコンテナヤードの拡張に加え、令和元年に岸壁の延伸工事が完成し、1万2千トン級の2隻同時接岸、同時荷役が可能となりました。さらに、伏木富山港からシベリア鉄道を利用してモスクワ・欧州へ貨物輸送を行う「シベリア・ランド・ブリッジ」を推進するなど、ロシア物流拠点化の取組も進めています。

富山駅周辺では、県施行の「あいの風とやま鉄道」の高架化に続いて、昨年3月には富山市施行の路面電車の南北接続と南北自由通路も完成し、駅南北市街地の一体化が一つの到達点を迎えました。今後、交流が活性化し、まちづくりや観光などの面での大きな発展が期待されます。また、駅から徒歩9分に位置する富岩運河環水公園は、運河の両岸に遊歩道と芝生のスロープを設け、都市の中に明るく開放的で緑豊かな水辺空間を創出していま

す。園内ではカフェやレストランの出店や運河クルーズ船「富岩水上ライン」の運航、子供からお年寄りまで楽しめるさまざまなイベントの開催などにより、とても魅力的な公園となっています。平成29年に園内に富山県美術館が開館したこともあり、来園者数も増え、日本海側トップクラス・全国有数の観光スポットにもなっています。一帯がますます賑わうよう、魅力のさらなる向上に取り組んでまいります。

新型コロナウイルス感染症の流行により、東京一極集中のリスクがあらためて明らかになりました。社会構造を地方分散型に変え、真の地方創生を実現していくためには、その基盤となる社会資本が重要です。今後、富山県がさらに成長・発展するよう、安全・安心な暮らしを守り、活力ある地域づくりや経済や産業の発展に資する社会資本の整備を着実に進めてまいります。



富岩運河環水公園

対談



日本建設業連合会北陸支部長

北陸地方整備局長

芦田 徹也

Tetsuya Ashida

岡村 次郎

Jiro Okamura

■開催日／2021年1月28日(木) 13:30~15:00 ■場所／白山会館2階「明浄」

今回は、昨年7月に就任された北陸地方整備局長岡村次郎氏と、日建連北陸支部長芦田徹也氏による対談です。局長ご就任以来6ヶ月を経てのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保等について、いろいろとお話を伺いました。

対談
要旨

- ①北陸地方整備局長ご就任6ヶ月を振り返って
- ②2020年度補正予算、2021年度予算について
- ③北陸の活力ある地域づくりについて
(i-Constructionの普及・推進)
- ④日建連2大事業(週休二日実現・建設キャリア
アップシステム普及促進)について
- ⑤建設界の広報活動について
- ⑥日本建設業連合会等への要望について
- ⑦災害対応について
- ⑧終わりに

岡村次郎 氏 略歴

平成 2年 4月	建設省 採用
20年 4月	国土交通省 河川局 防災課 防災調整官
21年 4月	内閣府 企画官(政策統括官(防災担当)付参事官(地震・火山・大規模水害対策担当)付)
25年 4月	同 水管理・国土保全局 砂防部 治水課 事業監理室長
28年 6月	同 中部地方整備局 企画部長
29年 7月	同 水管理・国土保全局 河川計画課長
30年 7月	同 大臣官房 技術調査課長
令和 2年 7月	北陸地方整備局長(現職)

①北陸地方整備局長ご就任6ヶ月を振り返って

(日本建設業連合会北陸支部長)

昨年7月21日に北陸地方整備局長にご就任され、この間に地域の知事、自治体首長や建設業界の方々から様々なご

意見やご要望をお聞きしていることと思います。この間を振り返って頂いて、北陸地域の印象などをお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

建設省に入って最初の赴任地が新潟県庁でしたので、新潟での生活は2回目

になります。当時は新潟県庁勤務でしたので新潟県の方々とお付き合いはありましたが、今回の整備局勤務では富山県や石川県、管内で言えば山形県、福島県、長野県、岐阜県、福井県に至るまで、かなり幅広く北陸の方とお付き合いをさせていただくことになりました。北陸と一言

で言っても、それぞれに地域性があることを感じています。

今年は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、様々な方々との対面的なお付き合いができにくいため、そういう意味では非常に仕事がやりづらい中での着任になったと思っています。そのような中でも、北陸の皆さんは非常に人柄が温かいし、歓迎していただいています。北陸地方整備局に対する期待が非常に大きいということは端々で感じられ、その都度、身が引き締まるような思いで仕事をしています。

30年ぶりの新潟生活ということでは、新潟の風景は当時よりかなり変わっているように感じます。例えば、新潟駅南口などは見た感じがかなり違っており、新潟の進化を感じます。新型コロナウイルス感染症の影響もあるため正しい判断が分かりませんが、街中の人の数が昔ほどではないような印象もあります。昔から食べ物はおいしく、人柄も素晴らしい、雪は降

りますが人情の厚い、温かい地域という印象です。

②2020年度補正予算、2021年度予算について

(日本建設業連合会北陸支部長)

公共事業関連として政府は、3ケ年に渡りました「防災・減災、国土強靱化緊急対策」に続き、昨年12月11日に2021年度を初年度とした「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」を閣議決定しました。初年度の事業費については今年度の第3次補正予算で措置されるとのことですが、引き続き、来年度以降も公共事業費の当初予算への上積みが見られるものと期待しているところです。

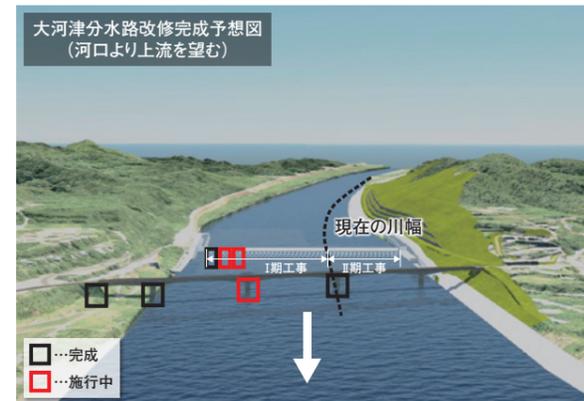
北陸地域における防災・減災対策をはじめ、主要なプロジェクトである大河津分水路の改修事業やミッシングリンク解消に向けた日本海沿岸東北自動車道建設事業、利賀ダム建設事業など、正に国土の

強靱化を加速させる事業であると思われるが、今後の予定などについてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

大河津分水路改修事業は、「令和の大改修」という呼び方で進めています。平成27年からスタートして今年で6年目になり、第二床固改修工事については、ケーソンを今年度に3基まで施工することで進めています。野積橋架替についても橋脚2基が完成し、現在3基目の橋脚を施工しており、順調に進んでいます。大プロジェクトですので、順調に進むことが第一だと思っています。また、新しい技術をいろいろと採用するとともに、BIM/CIMのモデル事務所として、3次元設計を基本に、デジタル化の最先端を活用するプロジェクトとして進めています。

河川関係では、利賀ダムについても順調に進めています。トンネルも次々着手し



大河津分水路改修事業

あり、中間目標として2019年度末までに4週6閉所以上を掲げておりましたが、完全実施には及ばない結果となっております。

また、建設キャリアアップシステムにつきましては、建設技能者の保有資格、保険の加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積することにより、技能者が能力や経験に応じた処遇を受けられる環境を整備することで、将来にわたって建設業の担い手を確保することを目的としております。今年度、北陸地方整備局においても、CCUS義務化モデル工事（朝日温海道路2号トンネル）を試行されたところですが、引き続き、このシステムの普及・推進に向けたご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

北陸地方整備局においては、週休二日とする発注者指定型による発注工事は今年度も増えてきております。日建連本部との意見交換会でも要望させていただきました全工事に発注者指定型の導入を通じて、民間発注工事への普及・促進においても加速させることができるものと考えております。この点について具体的な取り組みがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

週休二日は、現代では当たり前になっています。小学校からずっと週休二日の学校に通っている子どもたちが、社会人になって急に土曜日は休みではないということになると、ある種のカルチャーショックで成立しないのではないかと思います。もちろん、百貨店や鉄道など、土日仕事をしている商売も当然あります。そのような仕事でも、どこかで週休二日を取っているのが一般的であり、そういう意味では、週休二日は当たり前というのが社会の常識になっているので、当然、建設業界もそのようになっていかなければならないと思います。

建設業では公共工事と民間工事がありますが、公共工事が率先して取り組んでいます。公共工事の中でも、国・県・市町村

の発注がありますが、国が率先して取り組みを進めるということで、国土交通省がかなり先進的に取り組んできました。北陸の実績は令和2年度で9割くらいが週休二日になってきており、来年度からは全面的に発注者指定型で4週8休に取り組むことにしています。公共工事全般でいえば、少なくとも4週6休が取得できるような統一閉所の音頭を取らせていただいております。県の工事も市町村の工事も同じ日に閉所できるような取り組みをしています。

これは私からの質問となりますが、民間工事の週休二日をどうするのかということです。発注者が銘打って取り組むのは公共工事ならではのですが、民間工事は請負工事なので、請負者任せになるのではないかと想像しています。

キャリアアップについても同様に、モデル工事を発注しています。このような取り組みを通じて理解が浸透すれば良いと思っています。結局は公共事業としてやれることはやりますが、民間会社を含め各社がどう判断するかということになりますので、業界全体としてどのようにしていくのか、大きい会社から上手に進めていかないと小さい会社の理解も得られないのではないかと考えています。是非とも日本建設業連合会のお力も必要だと思っています。

（日本建設業連合会北陸支部長）

今、いくつか質問いただいた中でお答えいたしますと、民間工事の現状という意味では、大体の民間工事は、例えば、コンベで競争して数社から選ばれてという段階のコストや納期においては、週休二日を前提という形にはなかなかさせていただけていないというのが実情です。工場の生産や製造などは24時間昼夜で3交替という会社もありますので、土曜日を休まないという実情を話しても、なかなか分かっていただけない状況です。本当に若い人たちは土日が休みでないと会社に来てくれないとか、定着しないのです。やはり建

設業に来ていただくためには、土日を休みにするのは当たり前にしていかないといけないと感じております。その中で公共事業が先行して、週休二日をどんどん進めていただいている、徐々に公共事業で土日が休みということが定着してくるにつれて、民間工事でも徐々に比率は増えてきています。そういうものだねという感じで認めてくださる発注者もいらっしゃるし、私の印象では、民間工事において週休二日が当たり前になっていくのではないかと考えています。

もう少し補足すると、例えば、生産計画があって土曜日でも出してもらえないといけないという話であれば、発注者のご理解をいただきながら、交替で休めるような形で調達するなど、余分に費用はかかりますが、そのコストについても相談できるような関係になってくるのではないかと考えています。

世の中が週休二日になっていますので、リクルートなどでは、土日休みの週休二日という条件でなければ見向きもしてくれない状況です。そのような方向性は間違いなくありますので、国土交通省から週休二日が当たり前だという工事を進めていただくことによって、徐々に民間工事にも広がっていただければ良いと思っています。

（北陸地方整備局長）

そういう意味では、北陸地方整備局もそうですし、他の地方整備局もかなり進んでいると思います。維持工事など365日の仕事や今回の除雪などもありますし、災害対応はどうしても仕方がないのですが、会社の基本が週休二日ですときちんと言わないと、若い人たちには入り口で閉ざされてしまうのではないかと考えています。

⑤建設界の広報活動について

（日本建設業連合会北陸支部長）

日建連の北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために、社会資本整備の意義や必要性、又はそのやりがいな

ど、そのような理解促進を図るために、なるべく積極的に情報発信しているつもりです。土木学会新潟会と共催の「親子工事見学会」、新潟地区、石川・富山地区における大学生を対象とした「市民現場見学会」など、毎年実施しているところです。今年度はコロナ禍にあつてこれまでの現場見学会の開催は見送ったところですが、支部として初めての試みとして、現場と学校の講義室をリモートでつないだ現場見学会を実施したところです。国土の保全（災害対応等）や地域づくりを担う社会資本整備と魅力ある建設産業への理解促進の観点から、広報に関しての北陸地方整備局での具体的な取り組み又はご提案などがございましたらお聞かせ下さい。

（北陸地方整備局長）

私たちの最大の魅力である現場を実際に見ていただくことに尽きます。もっと言うと、造っている最中の現場は今しか見られませんという、そういう付加価値を上手に使うって見ていただくことが一番の武器になるという気がしています。とにかく身近に感じていただくことが大事であり、加えて理解もしていただける。我々が行っている土木の工事は公共の目的があるわけですから、それをしっかり理解していただ

きながら、新しい技術やさまざまな地域の歴史、そしてそれぞれの建造物の背景など、そういう物語なども付随してきます。そういった諸々を総合的に現場で見ていただくという取り組みが基本だと思っています。今年度は新型コロナウイルス感染症でなかなか思うように行かない部分はあるかと思いますが、他の産業との競争を意識した場合に、新潟では三条や燕のものづくりの地域がありますし、あるいは農業が非常に盛んですから農業体験のような話があったり、日本酒造りなどもあります。そういうものを見て体験していただくような取り組みが進んでいますし、大切だと思います。我々の業界で言えば、大きなものを造っている現場を見ていただき、更にでき上がったものを見ていただけるということが大切なことです。そういうところから入ることが一番の武器だと思っています。大河津分水路などは事業の目的も分かりやすく、そして先進的な取り組みをすることで進めていますので、PRできる事例は沢山あると思っています。

こうやって考えていると、例えば、私が治水課で事業監理室長だった7年くらい前にダムを見に行こうというチラシを本省で作ったのですが、とにかくダムを見に行こうというブームを作ろうと思いま

た。それ以前にもダムツーリズムや観光ツーリズムという話はありませんでしたが、ダムのような大きなものは特に珍しいので、インフラツーリズムとして定着させたいという思いがありました。最近のハツ場ダムなどを見ていると、かなり定着してきたという印象もあります。北陸の各事務所を回らせていただいても、東京にいたときよりも思った以上にダム等のインフラを見に来られる方や見学を希望する方が多いということを感じました。こういうインフラの普遍的な役割をしっかりと理解してもらおうこと、それから地域特有の話題や課題、過去からの歴史、建造物やインフラの整備に至るまでの話など、こぼれ話も含めてそういう物語を理解することは人間の知識欲みたいなところをくすぐる世界になっていますから、インフラツーリズムを見せていくというのはとても意味があると感じています。

そういう意味では、ハツ場ダムの見学も「いまだけ」「ここだけ」「あなただけ」という言い方で付加価値を高めていました。大河津分水路や朝日温海道路もそうですが、やはり見ていただくということを意識していきたいと思っています。利賀ダムの現場も山奥で大変ですが、本体工事の際には見に行っていたかと思えますし、輪島道路も金沢から距離はありますが、軟弱地盤で非常に難しい現場ですので、そういった専門的なことを上手にお話して、知識欲をくすぐるようにしていきたいと思っています。

⑥日本建設業連合会等への要望について

（日本建設業連合会北陸支部長）

我々の業界は、国内総生産、または全産業の中の一般の労働者の中では1割余りを占めており、基幹産業であるという自負心があります。特に、北陸地域というのはそのウエイトが他の地域よりも高いわけですから重要な産業であると認識して



リモート市民現場見学会（2020/11/10於長岡高専講義室）

います。北陸の活力ある地域づくりという観点から、日本建設業連合会または建設業界に対して、ご意見、ご指摘、またはここがダメなのではないか、こうするべきではないかというお話がございましたら是非、お聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

日本建設業連合会は規模の大きな会社の集まりなので、これまで話してきたような新しい技術開発、先進的な取り組み、今の時代で言えばDXの取り組みをそれぞれの会社においても開発されてきたと思います。それらをどんどん実践して、先進的な取り組みをどんどん進めていただき、建設業全体を牽引していただきたいというのが、私の基本的な思いです。この業界はどうしても地方の中小企業の現場で働いている方まで含めた大きな広がり、裾野を持った社会ですから、先頭が頑張るってそのノウハウを浸透させていくのが役割と思っていますので、是非それを見えるようにやっていただけるとありがたいと思います。

⑦災害対応について

(日本建設業連合会北陸支部長)

近年では、関東・東北豪雨災害、熊本地震が発生し、平成29年7月には九州北部豪雨と大きな自然災害が発生し、翌30年7月には北海道胆振東部地震、昨年7月には梅雨末期に次々と発生した線状降水帯によりもたらされた豪雨により熊本県の球磨川氾濫において記録上最大の浸水深を記録しております。また、この北陸地域においては、一昨年の台風19号による豪雨により信濃川水系千曲川の堤防決壊などで地域に甚大な被害をもたらしました。多発しているこうした近年の局地的・集中的・激甚的な豪雨災害に備えて行くことになろうかと思いますが、日頃より大規模な災害対応についての考え方や新たな取り組みのようなものがございましたらお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

まずは、一昨年の千曲川の洪水に当たりまして、日本建設業連合会の皆様方、そして長野県、新潟県、富山県、石川県の各建設業協会の皆様や、建設コンサルタンツ協会あるいは測量協会など、業界を挙げて皆様方にご支援をいただきました。応急復旧そして災害復旧、本格復興へと今に至るまで対応をいただきまして、心より感謝申し上げます。災害のときには業界の皆さん総出で、昼夜を問わず地域のために対応していただき本当にありがたく感じるとともに、この業界の一体感が表れる一つの場面だと思っております。皆様方のご尽力に心より感謝申し上げます。

今、地方整備局はTEC-FORCEを設置し全国で活動しています。応援に行くこともありますし、応援に来ていただくこともあります。そのような形で、災害への備え、対応を自ら経験するというを常に意識して活動することにより、災害対応力を上げていくことに取り組んでいる状況です。政策的に言うと、温暖化で洪水が頻発化、激甚化と言われておりますので、その対応が喫緊の課題になっております。川だけで治水対策をやるのではなく、流域

全体で総力を挙げて治水対策を行う「流域治水」への転換が進められています。発電ダムのような利水ダムもお借りして治水対策をしていくという、総力戦で当たるのが今の防災対策になっています。

災害対応も同様であり、TEC-FORCEだけでやるのではなく、業界の皆様のお力を借りて災害対応をしていかないと、人口減少時代、担い手不足の時代の中では乗り越えていけないだろうと思っています。そういう意味では、業界の皆様にお世話になることばかりになってきております。最近では、ドローンを飛ばして現地調査をするなど、新しい技術も使いながら、災害の現場であっても効率よく状況を把握して、画像からいろいろな判断ができるようになれば、効率よく災害対応ができるようになっていくと思います。そういう技術開発も合わせながら、一丸となって対応していくことが重要ですので、引き続き、日本建設業連合会をはじめ、業界の皆様方にお世話になることが多いかと思っております。

これは、この業界の宿命でもあり、役割でもあると思っています。そういった皆様方のご苦勞も含めてお願いしたいと思っております。そのため、常にしっかりとしたものを



造っていくことが大事であり、災害における復旧を円滑に進めるためにも日頃からの仕事の仕方を考え、取り組むことが重要と思っております。我々整備局の職員も日頃から設計をし、施工管理を行っていますが、業界の皆様にも日頃からの現場での仕事、特に安全管理に努めていただけるとありがたいと思っています。

水害は、台風がどの経路を通るかによってどこに雨が降るか、前線がどこに停滞するかによってどこで集中豪雨となるのかの違いであり、ある意味で紙一重です。紙一重の世界ということは、今までなかったからいいわけではなく、たまたま通過しなかった、停滞しなかったというだけの話ですので、常に緊張感を持って我々は対応していかなければならないと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

私も会社の中で、災害対応は本当に建設業の第一義だと、こういうときに頼られてこそ建設業で、そこはみんなでしっかりやっという言っています。現場などに声をかけると、目の前の仕事があるにもかかわらず、災害対応だったらと言って、この前の大雪への対応の際にも多くの作業員の方がスコップを持って応援していただきました。困ったときに助け合うことは

大事なことで、国民の皆さまにそういうときに貢献できてこそ、やはり建設業だと思っています。千曲川の災害復旧の時も、日本建設業連合会の会員各社の皆さんが、是非対応させてくださいとおっしゃっていただいたのは、本当にありがたかったです。

(北陸地方整備局長)

あの大変な中で応急復旧をしていただき、心より感謝申し上げます。やはり、応急復旧していただけるのはこの業界の方々がいっしゃるからであり、私の経験からもそうですが、災害対応のたびに思うところは強いです。今回の大雪の対応で言うと、自衛隊の方は見えるのに建設業の方が頑張っている姿があまり見えないうので、もう少し上手に見せられないかと思っています。今回の除雪についても苦勞してやっているのですが、一方で、来るのが遅いなど苦情的な声もあり、そういうものばかりが紙面を賑わせています。業者の方は体を張って24時間しっかり頑張っていると思いますので、その辺をうまくPRしていきたいと思っています。

⑧終わりに

(北陸地方整備局長)

局長が現場に行き委託業者の方を

激励する雪寒激励という場面があるのですが、今回の大雪対応の話を伺うと本当にご苦勞されていて、それこそ除夜の鐘を除雪ステーションで聞かなくて、体を張って第一線で頑張っていたかと思っています。

しかし、市民からは少し見えにくいところで仕事をしているというのが業界の皆様ですので、本当に頭が下がる思いです。そういう業界の皆さんの意識をしっかりとして、この仕事は大事な仕事だということを意識しながら業界を大事にしたいと思っておりますし、またそれを引っ張っていくのが日本建設業連合会だと思っています。

それから、建設業の魅力を発信していく中で、ネガティブなものを排除していかなければなりません。一つは安全管理であり、建設現場で工事事務が発生するたびに事故がありましたと世の中に出ると、ご家族や親御さんからはうちの子供を危ない職業に就かせられないとなってしまいます。現場の安全管理はとても大事であり、小さな事故を防ぐことで大きな事故を防ぎ、安全な現場にしていくことで、建設現場は変わったと思われるようになっていきたいと思います。是非そういう工夫も日本建設業連合会の方々に率先してやっていただければ、ありがたいと思っています。

TEC-FORCE活動

令和元年10月 令和元年東日本台風(台風第19号) 長野県

- リエゾン : 情報収集・支援要望調整(長野県庁、長野市、飯山市 他)
- 被災状況調査班 : ヘリ調査、河川、砂防、道路(長野県長野市、上田市、佐久市、佐久穂町 他)
- 応急対策班 : 緊急排水 [排水ポンプ車、照明車](長野県長野市、小布施町 他)
: 路面・側溝清掃 [路面清掃車、側溝清掃車等](長野県長野市、飯山市 他)

■ リエゾン活動状況



長野県庁

長野県長野市

■ 応急対策班(緊急排水)活動状況



長野県長野市

長野県小布施町

■ 被災状況調査班(ヘリ調査・河川・砂防・道路)活動状況



長野県上田市(河川)

長野県佐久穂町(河川)



長野県長野市

長野県飯山市

学生を対象とした「リモート市民現場見学会」を開催

2020年11月、長岡工業高等専門学校（長岡高専）の学生を対象に（一社）日本建設業連合会北陸支部主催の「リモート市民現場見学会」を開催しました。

- 開催日：2020年11月10日（火）12:50～14:20
- 現場名：大河津分水路 新第二床固改築I期工事
発注者 北陸地方整備局
施工者 鹿島・五洋・福田特定建設工事共同企業体
- 場所：長岡工業高等専門学校 講義室
大河津分水路新第二床固改築JV工事事務所 会議室
- 参加者：15名（学生13名、先生2名）、
JV（工事事務所長 他3名）
- 使用ソフト：Microsoft Teams

当日の流れ

- ①工事概要説明 (約30分)
- ②工事状況の映像 (約30分)
 - ・令和元年10月の台風19号による現場の大洪水状況
 - ・施工状況映像を用いた各工種の説明
- ③若手社員の1日 (約10分)
 - ・入社4年目社員による説明
- ④質疑応答 (約20分)



長岡高専側の視聴状況



現場側の説明状況

安全で安心な地域づくりに貢献している建設事業に対する理解の促進や、社会資本整備の必要性についての理解を得るため、今年度は新型コロナウイルス感染防止の観点からリモート形式で開催しました。

当日は、工事概要の説明後、現場の施工状況を、映像を用いて説明し、理解を深めていただきました。

また、入社4年目の若手技術者より「若手社員の1日」と題した説明を行い、建設会社における若手社員の仕事内容についても理解を深めていただきました。

学生の質問についても、現場所長がリアルタイムに回答することで、通常の見学会と変わらない対応ができたと感じています。

事後アンケートにおいて、リモート形式での開催について「良かった」との意見も多かったため、今後も参加者の意見等を参考にしながら、引き続き、現場見学会を計画し、次世代の担い手確保に努めていきたいと思っております。

令和2年度「建設技術報告会」

「建設技術報告会」は北陸地方における建設事業の円滑な推進を図るため、官公庁並びに民間建設会社において、新たに研究開発された新技術・新工法等を報告することにより研究開発技術の普及を図る事を目的とし、1995年から開催され、今年で25回目の開催を迎えました。

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大を受け会場での開催を中止した代替えとして、Webビデオ放映並びに建設技術報告会ホームページ上にて技術パネルやNETIS等パンフレットの展示での開催となりました。

建設分野の新技术・新工法の報告会

令和2年度 建設技術報告会

北陸地方建設事業推進協議会
令和2年度「建設技術報告会」実行委員会

【報告技術(Webビデオ放映)の日建連会員会社と報告内容】

会社名	テーマ	報告技術名
1 五洋建設(株)	①	プレキャスト橋脚工法～橋脚工事の生産性を向上～
2 (株)本間組	①	水中3D誘導システムの現場への適用
3 日特建設(株)	①	N-Jet工法の開発
4 清水建設(株)	①	3眼カメラを用いた配筋検査システムの妙高大橋架替下部その4工事における有効性評価
5 (株)植木組	④	i-Construction 施工段階での3次元データの利活用
6 西松建設(株)	②	傾斜監視クラウドシステム「OKIPPA104」の開発
7 東亜建設工業(株)	②	橋脚鋼管杭補修技術「タフリードPJ工法」の改良

【掲載技術の日建連会員会社と掲載内容】

会社名	テーマ	報告技術名
1 (株)フジタ	①	斜め往復撮影による標定点不要の造成地UAV写真測量手法の開発
2 佐藤工業(株)	①	レーザースキャナによるトンネル施工管理
3 鹿島建設(株)	①	次世代建設生産システムA4CSELの開発
4 大成建設(株)	①	次世代油圧ショベルによる作業自動化
5 不動テトラ(株)	①	地盤改良の自動打設システム「GeoPilot®-AutoPile」
6 前田建設工業(株)	①	トンネル地山AI評価システムの開発
7 (株)大林組	②	渋滞を抑制する新たな床版取替工法「DAYFREE」
8 東亜建設工業(株)	④	AIを用いた1週間波浪予測の精度向上

報告テーマ分類

- ① 「良いものを安く(i-Construction)」
- ② 「社会資本の的確な維持管理・更新」
- ③ 「雪に強い地域づくり」
- ④ 「自然災害からの安全確保」
- ⑤ 「環境の保全と創造」
- ⑥ 「その他」

現場で輝く
けんせつ小町



「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。

「一人の 土木技術者として 奮闘していきます」

Q. 建設業界・建設技術者を目指したきっかけ

A. 私は、大学で森林・林業を学んでおり、林業にかかわる仕事を中心に就職活動を進めていました。そのころ友人の紹介で当社の企業説明会に参加し、新幹線や河川の工事現場を見学して「こういう仕事もあるんだ」と土木に興味を持ちました。もともと自然の中いることが好きだったので、思い切って建設業に飛び込みました。

Q. 現在の業務・やりがい

A. 現在は、新潟県糸魚川市を流れる一級河川姫川で河床整備の工事を行っています。今回の工事では、生産性の向上や品質の確保を図ることを目的としたICT施工に挑戦します。現場責任者として、発注者との打ち合わせや現場の工程・出来形・品質・安全・原価等すべての施工管理をしています。資格を取得してからは、徐々に担当する工事の規模が大きくなってきました。プレッシャーもありますが、やり遂げてみせる、と業務に励んでいます。

私のやりがいは、自分の考えがカタチになっていくことです。自分の段取り・指示ですべて現場が進んでいきます。施工中は考えることがとてもたくさんあり大変ですが、少しの施工の工夫で出来栄が良くなったり、施工に使用する機械や材料の選択により施工効率が良くなり利益が上がったり、思い通りに結果が残せた時にやりがいを感じます。

Q. 建設業界全体に対する思い・現場で働く意義や魅力

A. 社会インフラを支えているとても重要で魅力的な業種だと思っています。でも、私が学生の頃そうだったように、あまり知られていない、注目されていないのが残念です。近年何かと災害が発生しますが、そこで発揮されるのが、土木の力だと思っています。災害を未然に防ぐための防災工事や災害発生時の迅速な応急工事、それからの災害復旧工事、どれも私たちが安心して生活していくためには欠かせないものだと思います。



株式会社笠原建設
土木部

野本 麻衣子

Maiko Nomoto

今回は、新潟県糸魚川市を流れる一級河川姫川で河床整備の工事でご活躍されている野本麻衣子さんにお話を伺いました。

Q. 未来の女性技術者・けんせつ小町への思い・メッセージ・アドバイス

A. まだ男女比率は男性の方が多い業種ですが、以前よりも女性の物珍しさはなくなったように感じます。それは女性も働きやすい環境が整い、性別関係なく働ける業種へ変化し、世間から認識されるようになったからです。女性だからと謙遜せず(甘えず)、なんでも思い切り挑戦することが大事だと思っています。私自身も一技術者として奮闘していきます。



当社の女性技術者



現場での様子

新潟博報堂は、2003年に博報堂新潟支社から分社独立した広告代理店です。営業エリアは新潟県ですが、クライアントやテーマによっては国内や海外にある博報堂の拠点と連携し、エリアを超えて仕事をすることもあります。

私が所属する地域創生ビジネスデザイン部は2019年に新設された部署で、地域をプロデュースし新たなビジネスを地域の方と一緒に生み出すことを目指しています。地域ビジネスに興味を持つきっかけとなったのは、2004年10月23日に発生した「新潟県中越大地震」でした。当時一緒に仕事をしていた方から声をかけていただき、自治体へ自主提案する「復興ビジョン」の策定に参加し

ました。そこから災害を通じて得た貴重な教訓を未来へつなぐため「中越メモリアル回廊」構想が生まれ、地域に新しい価値と賑わいを創出し、災害の記録と記憶、復興の経験をこれからの財産として伝える施設の企画・設計・施工のお手伝いをしました。この仕事を通して地域の方からご縁をいただき、地域復興や支援のお手伝いを同時にすることになるのですが、この時のフィールドワークの経験が「地域とつながる」私のベースになったと思います。

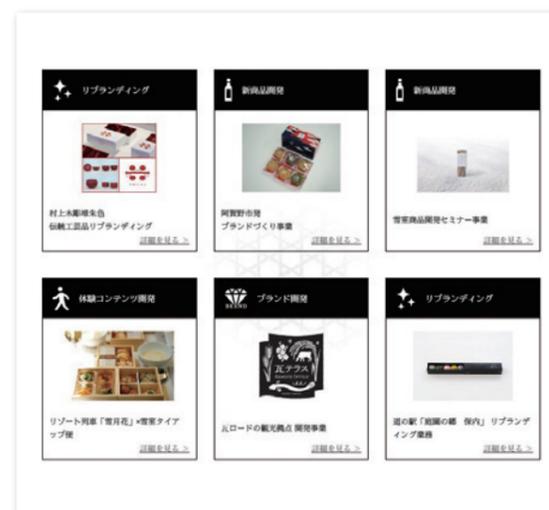
2017年4月に地域企業や自治体の新たなブランドづくりを支援するプロジェクト「NIIGATAみらいプロジェクト」が(株)新潟三越伊勢丹と新潟博報堂の

共働で立ち上がりました。マーケティング・ブランディングや商品開発・販売など両社の強みを掛け合せ、地域企業や自治体の皆さまへ他に類のない「地域ブランドづくり」として後押ししてきました。このプロジェクトはこれからも続いていきますが、私は地域に残したいコトやモノを見出し、アイデアやテクノロジー、資金調達などと掛け合わせ、新しい価値を生み出していくことで地域が元気になっていく取り組みに挑戦していきたいと考えています。

「発想から実装まで」
面白いアイデアを考えるだけでなく、その社会実装までを一気通貫で実行し、地域に貢献し続ける、新潟博報堂です。



中越メモリアル回廊を紹介しているwebサイト「チキノベーション」



webサイト「NIIGATAみらいプロジェクト」



エッセイ ESSAY



『地域とつくる 新しい未来』

株式会社 新潟博報堂
地域創生ビジネスデザイン部
部長
中村 文香
Naoko Nakamura

「穴場中の穴場にいがたから10年で美食の街 にいがたへ」



新潟駅構内の100店舗近くもある店舗の中から、令和初のCSアップキャンペーンで、第一位を獲得した賞状と一緒に記念撮影

TABI BAR & CAFÉ from SUZUVEL
おいしいナビゲーター
久保田 健司 Kenji Kubota

僕の働いている場所は、新潟駅構内西口連絡通路にあります。
にいがたの「食」をキーワードに人と人を繋ぎ、伝えて、未来へ紡ぐ観光案内所。
民間が運営する、新しい「食の観光案内所」です。

ただのカフェやバーではなく、新潟の魅力の一つ「食」を通じて、人々と地域をつなぐ役割を持つお店です。

カフェでは発酵をテーマにした食事やドリンクをご用意しており、明るくパツと立ち寄れるカジュアルな店内は、旅の出発点(0軒目)として使いやすい雰囲気に。

普段駅を利用する方にとっても、観光で新潟を訪れた方にとっても、便利でどこかワクワクする空間を提供しています。

店内中央には立ち飲みのカウンターも置いてあり、様々な人生の旅人達が出会い、情報交換、次の新潟の美しい場所へと紡がれて旅立っていきます。

お陰様で、2019年にオープンして、まだまだよちよち歩きですが、沢山の人達から、可愛がっていただき、新潟駅構内ショップのCS(顧客満足度)キャンペーンでは1等賞をいただきました。

益々今、自分たちの住む新潟の食に携わる人達に、「光」を照らせるかとワクワクしています。

僕たちの言う「美食」とはただ単に高く、高価なものを食べる、ことではありません。

新潟には、すぐそこに素晴らしい生産者さ

ら、漁師さん達、酒蔵、醸造家さん達が減ってきてはいますが、まだまだいてくれます。

あたり前に作られることのない、苦勞など哲学的な感動の物語が、ここには沢山あります。

食べ物の裏側が知れる。「命」を育む尊さが知れる…。

ここに人生の旅人たちは、共感してくれて、益々この街、この場所を好きになってくれています。

コロナや工事中で、世界一わかりづらい新潟駅ですが(笑)、今は穴場中の穴場新潟!!

10年後には世界が目にする美食の街にいがたにします!! しましょう!!



「はじめまして、の先に」



宮越仁美繡工房
宮越 文美 Ayami Miyakoshi

「どちらの出身ですか?」「職業は何ですか?」

はじめてお会いする方とこのような会話を交わしますよね。

おそらく普通は「福島県出身です」で終わるところ、私の場合は「…が、小学校入学時に石川県に引っ越してきたので、こちらの生活が長いです。父の故郷が秋田県なので、里帰りはもっぱら秋田ですね」と答えます。

後者に対しては「母が伝統的工芸品『加賀繡』という着物や帯にほどこす刺繍をしており、私もそれが主な仕事です。美術系大学を卒業した流れか、展覧会運営の仕事、アーティスト・イン・レジデンス(滞在型制作)のサポート、アーティストの作品説明の翻訳なども、時々依頼があります。そうした領域で活動することで、近年は舞台現場の手伝いや音響のサポートに入ることもあります。それと会社経理の事務補助とかですわね…」と続きます。

新型コロナウイルス感染拡大によって、この一年間で私達の生活と常識はがらりと変わりました。これまで会社通勤をしていた方は自宅でもリモートワーク、接客業はプラスチック板一枚を隔ててのやりとり、イベント関係者はディスタンスを保ちつつ如何に臨場感を提供するか模索しています。

少々不便であったり、人とのもどかしい心理的距離を感じながらも、意外とできることが多い自分を見ついたり、ちょっとした工夫で問題解決する場面があった方も多いのではないですか。

私達は雇用形態や管轄を意識するあまり、つい仕事を制限しがちです。しかしこれからは個々がどのような人生を生き、経験し、感

じたかが「誰かのために働く」ことに作用すると思います。
自己紹介でいつもより長めにあなたのことを聞かせて下さい。その先に見えるあなたとの仕事に関わる日が来るのを楽しみにしています。



ゆるたいむす

「佐渡の女性を身も心もキレイな美女軍団に!!」



ナリス化粧品
引野 紀子 Noriko Hikino

今から十五年程前に佐渡にUターンし、それまで愛用していたナリス化粧品の代理店として美容の仕事を始めました。その頃から自分の使命は、「佐渡の女性を身も心もキレイな美女軍団にすること」そう思い仕事をしてきました。

仕事をしていく中で、外見だけでなく、内面からにじみ出てくる美しさも必要と感じ、カ

ラーセラピーという色彩療法を取り入れ、カラーの力で癒しと自分自身に向き合うというヒーリングもしています。更に、昨年の自粛期間中に、トレーナーの資格を取得し、佐渡でカラーセラピスト養成講座も開講しています。

それでもまだ何か足りないと思っていた時、エステにいらしゃった日本舞踊の先生のお茶を飲む姿を見て、これだ!! と思いました。立ち居振舞い、言葉遣いなどがキレイだったら完璧な美女軍団を作れるのではないかと思います。その頃タイミング良く、ピジ

ネスマナーの先生と出会い、その先生のもとで勉強し、昨年の十月、一級試験に合格しました。この機関誌が発行されている頃には、マナー講師の試験を受け、きっと合格しているはず(笑)。

今後の展開としては、美容を本業としつつ、カラー、マナーこの三つを武器に、講師活動もしていきたいと考えています。その為に、常に自分自身を研鑽し、自らが身も心もキレイな人間でいられるよう日々努力していきたいと思っています。



ビジネスマナー講座



カラーセラピーセッション風景

「YOGAとライフスタイル」



キネシオロジーヨガ
橋本 愛子 Aiko Hashimoto

ここ数年、転職で環境の変化が重なり、なんとなく緊張状態が続いていたので、自分のライフスタイルにヨガを復活させたいなと思って、前から受けてみたかった市川先生のスタジオが東京だったので、月一回ペースでレッスンに通っていました。

当時は慣れない仕事と家の往復で、目に見えない疲労がたまっていたのか、クラスで先生が鳴らすシンギングボールの音色で、モ

ヤっとしていた頭がなんかスッキリして、あまり心地よく、その後休暇で立ち寄ったカリフォルニアのLOHASな街パークレーでみつけたシンギングボールを記念に購入し、家で鳴らしていました。クラスではヨガ哲学や瞑想も勉強しましたが、先生のヨガとキネシオロジーのセッションを受けたら、なんか調子よくなって心身が軽くなり、客観的に自分と向き合える貴重な時間でありました。

一年ほどたった頃、先生がストレッチポーズで気の流るを整えるキネシオロジーヨガの指導者養成講座を開催されていたので、私も学びを深めセルフメンテナンスにと、勇気をだしてチャレンジしてみました。周りは現役のインストラクターの方ばかりで圧倒されましたが、奥深いヨガの世界を垣間見れて、幸せなひとときでした。

現在は通っていたスタジオがクローズしてしまいましたが、コロナの影響もあり、新潟にいながらもオンラインで学べる環境が充実してきました。またいつか、TT(指導者養成講座)を再受講して自分に学びを落としこみたいので、セルフプラクティスを習慣にしつつ、その日がくる準備をしたいと思っています。

最近の市川先生は、ラグビーヨガを考案さ

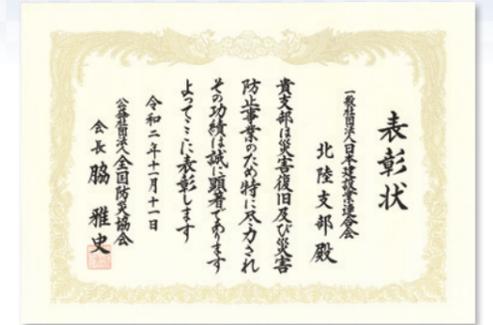
れて安村アナやラグビー日本代表の田中史朗選手とも一緒にヨガをして活躍されているので、日テレラグビーCHのYouTubeをみてみてください♪



事務局だより

●令和2年度災害復旧及び 災害防止事業功労者表彰

日建連北陸支部は、令和元年度における災害(令和元年台風19号)対応にあたり、被災地の応急復旧に寄与した功績が非常に大きかったことから、公益社団法人全国防災協会より表彰されました。



●2020年度下半期の主な支部活動報告

・関係機関や会員の皆様からご協力をいただき以下の活動を展開してきました。

■東日本高速道路(株)新潟支社との意見交換会
開催日/2020年9月28日(月) 会場/白山会館
内容/ホームページに掲載

■中日本高速道路(株)金沢支社との意見交換会
開催日/2020年10月2日(金) 会場/白山会館
内容/ホームページに掲載

■学生を対象とした「リモート市民現場見学会」
開催日/2020年11月10日(火) 内容/本誌11Pに掲載

■安全パトロール・現場点検(9月~10月)
内容/安全環境対策委員会(安全分科会)で新潟県・石川県で4現場の安全パトロールを実施。
事故防止対策委員会(火薬類・交通安全・公害防止の本支部合同現場点検及び支部現場点検を5現場(新潟県・石川県)で実施。

■「土木の日」記念講演会
開催日/2020年11月18日(水) 会場/アートホテル
内容/土木学会新潟会と共催で開催し、80名の参加を頂きました。
講演Ⅰ「防災意識向上の必要性について」
~台風19号豪雨災害からの教訓
講師 北陸地方整備局 総括防災調整官 渡邊 昌彦 氏
講演Ⅱ「挑戦し続ける心~夢はときどき叶う~」
講師 フリーアナウンサー・エッセイスト 遠藤 麻理 氏

■新潟市議会政策研究会との意見交換会
開催日/2020年11月20日(金)書面にて対応

■労働災害防止安全推進大会
開催日/2020年11月26日(木) 会場/新潟グランドホテル
内容/会員会社の建設現場における更なる安全意識の高揚と労働災害撲滅に向け決意を新たにしました。

■建設技術報告会
開催日/2021年1月18日~22日
・Webビデオ放映(オンデマンド配信)
開催日/2020年11月16日~2021年1月31日
・技術パネル及びNETISバンフレット展示
(建設技術報告会ホームページにてデータ掲載)

■新潟労働局と安全環境対策委員会との意見交換会
開催日/2020年12月10日(木) 会場/興和ビル 大会議室
内容/ホームページに掲載

■事故防止に関する講習会の開催
開催日/2021年2月10日(水)
内容/建設工事の地下埋設物事故防止講習会
開催日/2021年2月26日(金)
内容/建設工事の交通事故防止講習会

■新潟県との意見交換会
開催日/2021年2月9日(火) 会場/白山会館
内容/ホームページに掲載

■JR東日本上信越工事事務所との意見交換会
開催日/2021年2月17日(水) 会場/白山会館

■北陸地方整備局との意見交換会
開催日/2021年3月10日(水) 会場/白山会館
内容/ホームページに掲載予定

■運営会議
開催日/2021年3月10日(水) 会場/興和ビル 大会議室

■北陸地方整備局企画部と
安全環境対策委員会との意見交換会
開催日/2021年3月18日(木) 会場/興和ビル 大会議室
内容/広報誌「ゆ」70号に掲載予定

MY PRIVATE TIME

「新たな出会いと 一人の休日」



あおみ建設株式会社
北陸支店長
早坂 浩太郎
Koutaro Hayasaka

2020年10月から北陸支店長に就任しました。	食事は基本自炊をしており、昼も弁当持って出社しています。休みの日は	の帰り道にプールバー(ピリヤード設備のあるバー)を発見!思い切って一人で
北陸支店は新潟と北陸3県を管轄する支店で、昭和37年に事務所を開設し昭和60年に北陸支店となり、現在に至ります。	宿舎にすることが多く、料理を楽しんでいます。腕前はまだまだですが、1週間分を目安に色々おかず作りで精を出しています。得意料理は男料理の定番	入店すると、これまた気のいい若い(20代後半)バーテンダーが登場、スコッチを傾けながら手合わせて頂きました。その時間はとても居心地よく、
やはり新潟・北陸といえば美味しいお酒と鮮魚ではないでしょうか。人柄の良い気さくな皆様に出会え、楽しく美味しい酒と鮮魚に舌鼓を打っています。	番パスタとチャーハンで、子供たちにも「お母さんより美味しい」と好評ですが、使用する具材がカニ等、家計を預かるかみさんが決して使わない高級食材を使用しているからに他なりません。これも男料理の醍醐味です!	その後も客の少ない時間帯を見計らい、時々顔を出すようになりました。夜8時からの開店で、10時くらいまでは殆ど客が訪れません。その暇な1~2時間、バーテンダーは私に付き合ってくれています。ゲームは運もある「9ボール」
赴任して間もないですが、すっかりこの地にも馴染みました。そのおかげもあり、順調に体重も増加し、赴任前と比較し3kg程度増量させて頂きました(笑)。コロナ禍のおり、派手な酒宴とは行きませんが、安くて美味しいお店もたくさんご紹介頂き、コロナが落ち着きましたら家族を呼んで楽しみたいと思います。	もう一つ、こちらに来て始めたことはビリヤードです。私が学生時代にトム・クルーズの出演する「ハスラー2」という映画が大ヒット、その影響もあり気の合う仲間たちと足繁くビリヤード場へ通いつつ、夜通し腕を競い合いました。社会人になってからは殆どすることも	か、そこそこの実力を試される「8ボール」の何れかです。彼もなかなかいい突きをしますが、どちらのゲームも、「昔取った杵柄」体に染みつくハスラー魂を持つ私に、まだまだ敵う相手ではありません(お客様だから気持ちよくさせているかもしれませんが…笑)。ですが、若者と玉を突いて遊んでいると、楽しかった学生時代を思い出さずには
自宅は仙台で、単身赴任中です。	無くなりましたが、こちらに来て宿舎へ	いらなくなります。



休日は一人で料理を楽しみ、平日は美食とお酒と玉突きを新たに出会った気さくな方々と楽しむこと。これが私の「プライベートタイム」です。

BACK STAGE 編集後記

1シーズン前の超暖冬から打って変わって、今年は寒波が次々と来襲しており北陸地方も多大な影響を受けております。市中での除雪排雪作業量以上に瞬間的な積雪があった地域では、至る所で車両故障や走行不能、追突事故などが発生し、交通網がマヒしてしまった事例も数多くありました。また、大雪で送電線網にトラブルが起きて停電となった地域も多くあったと報道されております。その様な事態に遭遇した場合に、今その地域でどのような災害状況に見舞われているかを把握するには、スマホ・PCを使って市中の方々が発しているツイートを検索するというのがかなり重宝するということを今年の冬は実感しました。たくさんの方

が写真付きで状況を報告してくれているため、とくに帰宅時にどこを通過して、どう交通手段で行けば帰れる可能性が高まるかの情報収集に役立ちました。調べて移動しなければ、駅でタクシー待ちの大行列に密な状態で寒い中待つことになっていくかもしれません。もともと、その前に警報級の大雪予報が出た場合は、外出、特に車での移動を控えるようにする事が私たち個人で取り組める最大の災害予防策だと思います。一人一人のそういった心掛けが積み重なることで、予期しない事態発生が抑えられると強く感じた次第です。

(小川 晃市 記)

広報委員会スタッフ
委員長 細貝 隆司(五洋建設)
副委員長 岡崎 豊彦(熊谷組)
委員
久保 茂樹(安藤・間) 石附 裕(植木組)
福田 克彦(大林組) 濱 一男(大本組)
垣内 俊彦(鹿島建設) 山崎 和宣(五洋建設)
小川 晃市(清水建設) 小林 恵一(銭高組)
迎田 秀樹(第一建設工業) 岩佐 一郎(大成建設)
小嶋 洋一(東亜建設工業) 津川 圭一(フジタ)
森田 浩二(前田建設工業) 工藤 悟(若築建設)
事務局長 本間千代吉(日本建設業連合会北陸支部)